

自 平成27年4月 1日
至 平成28年3月31日

公益財団法人 ハーモニィセンター

平成27年度

事業計画書



公益財団法人ハーモニィセンター
〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1
独立行政法人国立オリンピック記念
青少年総合センター内
電 話 03-3469-7691
FAX 03-3469-7714

目次

—はしがき—	… 2
1 ポニークラブ、子ども動物広場、牧場等の運営及び受託管理	… 2
1-1 ポニートレーニングキャンプ	… 2
1-2 蓼科ポニー牧場・ポニークラブ	… 3
1-3 相馬ポニー牧場・ポニークラブ	… 3
1-4 小貝川三次元プロジェクト	… 4
1-5 子ども動物広場	… 4
2 教育、福祉、医療等の現場におけるポニー乗馬の普及	… 6
3 川べり環境の整備及び活用の推進	… 7
4 国際文化交流、技能実習生受入等の推進	… 7
5 新聞、雑誌、図書等の刊行及び電子媒体による情報発信	… 8
6 その他	… 9

はしがき

新体制に移行して3年目となる27年度は、この2年の間にハード、ソフトの両面で準備、着手した取組みについて随時具体化を進める年とする。これからの10年を見据え、安定した団体運営、積極的な社会貢献実現のため、以下の取組みを進めていく。キーワードは調査・研究と実行。

① ポニー（繋養馬）の更新

100頭近い繋養馬の高齢化に対し、10年後の一新をめどに順次購入、繁殖、売却によるポニーの更新を進め、今後想定される新規事業受託や他団体からの要請に応えられる繋養馬体制を作る。

② 蓼科ポニー牧場改修

26年度中に行った調査を基に、随時緊急性の高いものから補修を始め、今後3年をめどに、馬房を中心とした大規模改修計画を行う。

③ 外部研究者・機関との協同研究・発信

高齢者・障害者のための乗馬、教育現場における馬の多様な利活用、軽乗等々のテーマに関し、日本乗馬倶楽部振興協会、帯広畜産大学、日本治療的乗馬協会、シュタインフルト郡軽乗連盟等との協力関係の下、調査・研究を重ね、その成果を広く発信してゆく。

④ 常設施設の開設・運営に対する積極的応援

全国各地から寄せられる新規施設開設やポニー導入に関する要請に積極的に対応していく。

⑤ 会員規模の拡大に向けて

魅力ある活動参加の機会を増やし、いかに活動そのものを会員及び社会の発展に寄与する高い付加価値を持ったものにしていくかを強く意識し、会員拡大につなげてゆく。

1 ポニークラブ、子ども動物広場、牧場等の運営及び受託管理

1-1 ポニートレーニングキャンプ

一年を通して、5才から15才までの子どもたちにポニーとのふれあいを軸とした数々の自然体験活動を提供する。子どもたちは、同行するキャンプカウンセラー（ボランティアの青年たち）と共に、数日間の異年齢集団生活の中で喜びを持って気力・体力・技術を磨き、強い心、他者に対する思いやりの心を培っていく。

【年度の事務局主催キャンプ】

	実施回数	延べ泊数	参加数	
			子ども	大人
長期	22回	75泊	800名	0名
短期	17回	24泊	260名	50名
受託	17回	53泊	240名	5名
日帰り	1回	0泊	50名	30名
計	57回	152泊	1,350名	85名

1-2 蓼科ポニー牧場・ポニークラブ

高学年の子ども達に、その先にある目標を提示し、ここ数年問題となっているキャンプ参加者の低年齢化に歯止めをかけ、普及に関しては、他団体・一般利用者のための利用しやすい体験コースを設定する。

近未来を見据えた組織内での利用しやすい馬匹を生産する。

【事業内容】

- ① 野外教育施設としてのポニーキャンプ（主催事業）・ボランティアリーダー研修。
- ② 蓼科乗馬会（年9回実施）
- ③ 蓼科ポニークラブ（月2回日曜日の午後）
- ④ 他団体日帰り・宿泊乗馬体験
- ⑤ 移動乗馬教室
- ⑥ 引き馬・乗馬レッスン
- ⑦ ハーモニイセンタースタッフの乗馬技能・馬匹管理研修
- ⑧ 他の事業所と連携してのポニー・馬の繁殖、調教、育成
- ⑨ わんぱくポニー村（蓼科第2ポニー牧場）
ゴールデンウィーク・夏休み・9月連休期間、蓼科湖畔にて引き馬・小動物ふれあい
- ⑩ 団体・個人での研修受け入れ・相互交流
- ⑪ 学校向け、修学旅行・オリエンテーションの受け入れ
- ⑫ ポニーライダーズカップ開催

1-3 相馬ポニー牧場・ポニークラブ

27年度は下記の事業を継続しつつ、東京電力に対する賠償請求を行うと共に、撤退に向けて具体的に動き始める。

【事業内容】

- ① ポニーを中心とした事業活動
 - 1 主催事業 東北支援活動「子供たちに笑顔を贈る事業」を継続する。
 - 2 支援活動から交流事業への転換並びに交流事業をさらに具体的に推進する。
 - 3 今年度のポニー移動教室は地域社会、近隣地区を中心として実施する。
- ② 施設の利活用
 1. 被災・避難動物受入れ団体への施設利用を継続する。
 2. 復興事業へ参加する団体・ボランティアのための活動拠点とする。
 3. 地域社会の復興再生プログラムにおける活用、除染物質の仮置き場を継続する。
 4. 地域の活動団体との連携による施設利用を行う。

1-4 小貝川三次元プロジェクト

「子どもから高齢者まで」、「障害のある人もない人も」全ての年齢層の方が「いつでも参加できる」ことを基本とし、取手市柵木周辺の広大なフィールドを活用し、川（水辺）・陸上・空間と多岐にわたる事業（三次元プロジェクト）を展開する。

【事業内容】

- ① ポニー牧場の運営
 1. 乗馬（引き馬、団体レッスン・個人レッスン）
 2. 高齢者健康乗馬
 3. 川べり乗馬トレッキング
 4. 障害児・者の乗馬
 5. 移動乗馬教室（幼稚園・保育園・小学校・一般・高齢者）
 6. ポニー教室（三次元プロジェクト会員の小学校1年生～中学校3年生）
 7. ふれあい動物園（保育園・幼稚園・小学校・一般・高齢者向）
 8. キャンプの実施（自主事業・委託事業）
 9. 青少年ボランティアの育成
 10. 河川騎馬パトロール
 11. 河川整備
 12. 乗馬指導・乗用馬管理指導
- ② 小貝川生き生きクラブの運営受託（施設管理）
 1. パソコン教室（高齢者向け・週2回開催）
 2. 馬頭琴教室（月1回）
 3. ストレッチング教室（不定期開催）
- ③ カヤック教室、川遊び体験教室、子どもの水辺安全講座（5月～11月）
- ④ マウンテンバイク教室（年3回程度）
- ⑤ 団体受け入れ
- ⑥ 子どもの水辺サポートセンター及びNPO法人川に学ぶ体験活動協議会所有資機材の管理と貸出業務

1-5 子ども動物広場

こども動物広場（ふれあい動物広場、動物園）の運営は、全て各自治体とハーモニイセンターとの間で交わす契約書・仕様書（委託）、協定書（指定管理者）に基づいて行われる。

【施設概要一覧】

	所管課	面積等	飼育動物	職員数
碑文谷	都市整備部みどり公園課	3,310 m ²	ポニー6頭・ウサギ・モルモット・アヒル・犬	6名

水元	教育委員会 地域教育課	3,000 m ²	ポニー12頭・チャボ・鶏(15羽)	10名
相模原	環境保全部 公園課	15,000 m ²	ポニー21頭・ヤギ・ヒツジ・モルモット・ウシ・ブタ・リスザル・アライグマ・シマリス・ミーヤキヤット・ハイラックス・シカ・ウサギ・鳥類・クジャク・チャボ等	18名
万騎が原	財団法人 横浜市緑の協会	14,000 m ²	モルモット・ヒヨコ・アヒル・日本鶏・ハツカネズミ	3名
板橋 2園	土木部 みどり公園課	本園 1,907 m ² 高島平分園 583 m ²	ポニー4頭・ウサギ・モルモット・ヤギ・シカ・ヒツジ・フラミンゴ・クジャク・カメ・鳥類・リス等	10名
海老名	市民協働部文化 スポーツ課	2,014 m ²	ポニー2頭 モルモット	3名
上千葉	都市整備部 公園課	2,100 m ²	ポニー5頭・ヤギ・ミニブタ・ウサギ・シマリス・リスザル等	6名

【各施設事業内容】

1-5-1 碑文谷公園こども動物広場(ポニー園)

- ① ポニー引き馬乗馬(10:00~11:30、13:30~15:00)
- ② 団体向け乗馬ポニー教室(障害児グループ・幼稚園・保育園・学校・一般グループ)
- ③ ポニー乗馬教室(4~6月、7~9月、10~12月、1~3月の年4期、15:00~17:00)
- ④ 小動物とのふれあい(10:00~11:30、13:30~15:00)
- ⑤ 動物クラブ(動物飼育体験クラブ 10:00~17:00)
- ⑥ ポニーまつり(年1回)

1-5-2 水元中央公園子ども動物広場(ポニースクールかつしか)

- ① 健全児、障害児のための乗馬教室(平日 3:00~5:00)
(土日祝日 10:00~12:00 13:30~16:00)
- ② 幼稚園、保育園、特別支援学校等の団体乗馬教室(平日 10:00~11:30)
- ③ 乳幼児、小学生対象引き馬乗馬(開場日 10:00~11:30 13:30~16:00)
- ④ ホームページによる広報活動、日々の活動報告(毎日更新 年間2万人閲覧)

1-5-3 相模原麻溝公園ふれあい動物広場

- ① 小動物とのふれあい(ウサギ・モルモット・ヤギ・ヒツジ)
- ② 指導員付ポニー乗馬(引き馬)
- ③ 親子によるポニー乗馬(二人乗り引き馬・提案事業)
- ④ 飼育動物利用のイベント開催(羊毛クラフトなど・提案事業)
- ⑤ 子育て支援の一環としての親子ポニー教室(提案事業)
- ⑥ ポニーボランティアの育成(提案事業)
- ⑦ 毎月の特別企画(父の日母の日乗馬、敬老の日乗馬、羊と記念写真など)
- ⑧ ポニー教室
- ⑨ 障害児乗馬教室
- ⑩ 搾乳体験
- ⑪ 展示動物の飼育管理
- ⑫ 動物クラブ(飼育体験クラブ)の指導運営
- ⑬ 春・秋の動物フェスティバル

- ⑭ 近隣への出張乗馬教室
- ⑮ 幼稚園・保育園・学校等の団体の利用受け入れ

1-5-4 万騎が原ちびっこ動物園（野毛山動物園分園）

- ① 小動物とのふれあい
- ② 展示動物の飼育管理
- ③ イベントの開催（ポニー体験乗馬会、ヒツジの毛や鶏の羽を使った工作教室など）
- ④ 野外活動センター体験キャンプ受け入れ
- ⑤ 年3～5回程度のポニー体験乗馬プログラム

1-5-5 板橋こども動物園（本園・分園）

- ① 小動物のふれあい（ウサギ・モルモット・山羊・羊）（本園・分園）
- ② 引き馬指導員付ポニー乗馬（本園通年・分園年5回）
- ③ 展示動物の飼育管理（本園・分園）
- ④ ポニー教室 年5回（本園） 4月～12月までの間 1クール5日間。
- ⑤ 馬車の運行（本園） 毎月1回
- ⑥ 幼稚園・保育園・小学校・障害者団体等の受け入れ（本園・分園）内容 モルモット抱っこ・引き馬
- ⑦ 出張ふれあい教室 概ね年10回（本園） 使用動物 モルモット・ウサギ・山羊・ポニー
- ⑧ 動物クラブ（飼育体験クラブ）の指導・運営（本園・分園） 小学校3年生～中学生まで 休園日以外活動可能 時間 開園～閉園時間まで。
- ⑨ 動物園祭り（本園） 毎年10月 内容 日常業務に加え2人乗り引き馬・羊毛クラフト・動物バッジ他 冬のミニイベント 12月～2月毎週日曜日（分園）
- ⑩ 就労困難者の受入

1-5-6 海老名ふれあい動物施設

- ① 馬車の運行
- ② 引き馬指導員付ポニー乗馬
- ③ 小動物とのふれあい（ウサギ、モルモット、山羊など）
- ④ 各種イベントへのお出張活動
- ⑤ 幼稚園・保育園・学校等の団体プログラム
- ⑥ 夏、冬のポニー体験教室（それぞれ10回、5回）、春の親子ポニー教室
- ⑦ 物産品、関連グッズの販売

1-5-7 上千葉砂原公園ふれあい動物広場

- ① 小動物とのふれあい（ウサギ・モルモット・ヤギ）
- ② 引き馬によるポニー乗馬（1頭に付き2名で対応）
- ③ 動物愛護クラブの指導運営（期間や時間を定めての実施）
- ④ ポニー教室の実施（3回・各5日間・各1時間）
- ⑤ 展示動物の飼育管理（リスザル・シマリス・鳥類）
- ⑥ 出張動物園の実施（区内の高齢者施設や障害者施設、養護学校が対象）
- ⑦ 職場体験（中学生・高校生・専門学校生）

2 教育、福祉、医療等の現場におけるポニー乗馬の普及

2-1 ポニーを学校へ導入

学校へのポニー貸出し、派遣など、教育、福祉、医療等の現場でのポニー活用を働きかけてゆく。

2-2 グランドポニースクール（新潟県長岡市）

2週間にわたって市内の小中学校、高齢者施設をめぐり、移動乗馬教室を行うグランドポニースクールの実施が決定しており、日程については現在長岡市と調整中。(委託)

2-3 帯広畜大プロジェクト(仮称)

2013年に始まった、帯広畜産大学が「馬」を中心に据えた教育・福祉・地域貢献への取り組みへの協力依頼を受け、下記の協力活動を行う。

- ① 「動物介在活動室」への職員(1名)1年派遣。
- ② 「No. 3ちくだい馬フォーラム(9月)」イベントへの「軽乗演技チーム」派遣。
- ③ 「No. 2北海道十勝帯広ポニーキャンプ」の実施。(夏休み期間)

3 川べり環境の整備及び活用の推進

26年度、国土交通小関東地方整備局利根川河川事務所によって河川協力団体に認定された。認定申請の際に策定した5年間の活動実施計画に基づき、小貝川ポニー牧場を中心として河川に賑わいを取り戻し、環境点検・保全・清掃・事故防止・災害時に貢献するべく、活動する。

また、これまでもつながりのあった河内町、鹿島市との連携を強め、利根川を舞台とした活動を育ててゆく。

【事業内容】

- ① 騎馬による河川パトロール活動(年数回、ごみ拾い)
- ② 移動乗馬教室開設(河川敷、各種教育福祉施設広場など)
- ③ 河川流域関連イベント参加
- ④ 河川流域関連学習、研究会の開催
- ⑤ 河川敷の除草

4 国際文化交流、技能実習生受入等の推進

4-1 モンゴル国交流事業

4-1-1 「モンゴル大草原乗馬交流」

下記の日程で「モンゴル大草原乗馬交流」3コースを実施する。

日本語を学んだモンゴル文化教育大学卒業生を対象に、日本の技能実習制度活用のための調査研究を行う。

- ① 7月29日～8月5日 (一般・ナーダム競馬)
- ② 8月5日～8月12日 (一般)
- ③ 8月12日～8月19日 (一般)

4-1-2 モンゴル「モンゴルナーダム競馬組合関係者招聘」

遊牧民生活体験、ナーダム競馬イベントにおいて、毎年特別な協力体制で迎えてくれている現地「ナーダム子供競馬組合」の会長、総務部長2人を4月上旬に招聘し、今後のモンゴル乗馬交流をさらに発展させていくための意見交換を行う。

4-2 日独青少年相互交流計画

4-2-1 青年チーム派遣（8月）

日本とドイツの青少年がお互いの国を行き来し、異文化交流を通して学びあい、国際的視野を広げる機会とする。隔年で派遣と受け入れを交互に行っており、今年度は派遣の年となる。

本事業開始時からのパートナーである大崎市鳴子国際交流協会と合同で派遣する。

日程 2015年8月下旬
人数 目標値 15人
対象 16歳～30歳の青少年。

4-2-2 軽乗指導者招聘（4月25日～5月7日）

ドイツ、ラドベルゲン乗馬クラブより軽乗コーチ、選手の2名を招聘し、軽乗種目と障害者乗馬に関心のある人向けに、帯広畜産大学、ポニースクールかつしかを会場に、講習、デモンストレーションを行う。

4-2-3 「ドイツ乗馬交流」

シュタインフルト郡ラッドベルゲン馬術連盟・軽乗連盟の全面的な協力を受け、ドイツの歴史ある馬の文化にふれ、乗馬体験を中心として交流する。

【日程】 2016年3月下旬～4月上旬（9泊）
（Aコース）子ども軽乗交流コース
対象 小学4年～中学3年（軽乗経験者）
定員 15人
（Bコース）一般乗馬交流コース
対象 中学生～大人（乗馬経験者）
定員 10人
内容 （A、Bとも）

5 新聞、雑誌、図書等の刊行及び電子媒体による情報発信

5-1 機関誌「THE HARMONY CENTER from heart to heart」の発行

- ① 発行ペース：3ヶ月に1度（4月・7月・10月・1月の各1日）。
- ② 掲載内容：ハーモニセンターの行う「社会教育活動」の紹介
- ③ 発行部数：各号2,000部
- ④ 設置場所：公的機関（役所・公立図書館）および有料で設置できる場所（郵便局・銀行）

5-2 キャンプレター「Campal」の発行

- ① 発行ペース 年5回（5月・8月・10月・1月・3月）。機関誌と合併して発行する場合もある。
- ② 発行部数 機関誌との合併号の場合は2,000部、単独の場合は編集時点でのキャンプ参加者数によって決定する。

5-3 WEBによる広報活動

幅広い層へむけた情報公開を行う。また、ハーモニセンターの公式ブログや公式Facebookと連携することで、常に新しい情報を迅速に伝えられるようにする。

6 その他

6-1 長瀬げんきプラザJV

長瀬教育振興グループに参加し、年9回の運営会議に職員を派遣して集客、プログラム開発、リスクマネジメントに関する助言を行う。

6-2 人材育成

6-2-1 職員

1～2ヶ月に1回程度、職員勉強会を開催し、内外のシンポジウム、セミナー、研修会に積極的に職員を出席させる。

6-2-2 ポニーキャンプカウンセラー研修

子どもトレーニングキャンプを中心とした、ハーモニセンターが主催する全ての事業に参加する青少年を対象とし、活動を通じてハーモニセンターの活動趣旨を理解・体感・賛同し、技術を体得する事で自信を持って積極的に活動を推進する一員となることを目的とする。

① 宿泊研修会

	研修会名称	実施期間	会場	参加数
1	新人カウンセラー牧場研修会	6月12日～14日	蓼科ポニー牧場	10名
2	新人カウンセラー牧場研修会	7月10日～12日	蓼科ポニー牧場	15名
3	牧場研修会	11月27日～29日	蓼科ポニー牧場	10名
4	スキー研修会	12月11日～13日	蓼科ポニー牧場	10名
5	スキー研修会	2月5～8日	ロッジカティーン	10名
6	牧場研修会	2月12日～16日	蓼科ポニー牧場	20名
7	牧場研修会	2月19日～23日	蓼科ポニー牧場	20名
	計 7回	延べ19泊		95名

② 日帰り研修会

各種技術（ギター、レクリエーション、プログラム作り、ポニーの扱い、野外炊事技能等の自然体験活動、安全管理等）の習得及びカウンセラー同士の相互理解を目的とする。（会場は国立青少年センター、動物広場など）

6-2-3 指導者育成講座の開催

小貝川ポニー牧場において講座を開催し、川の指導者を養成する。

6-3 他団体との連携等

6-3-1 役員等派遣

公益社団法人全国乗馬倶楽部振興協会、NPO法人自然体験活動推進協議会、川に学ぶ体験活動協議会、公益社団法人日本キャンプ協会、NPO法人日本Gボール協会に役員を、中央青少年団体連絡協議会に世話人を派遣する。

6-3-2 運営協力

治療的乗馬研究集会、SAN (Social Active Network of outdoor education)、大都市圏動物園事務主管者会議、NPO法人未来に向かって助け合い、河川流域交流会の運営に協力する。